
真っ白な君へ

karinko

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真っ白な君へ

【コード】

N9900G

【作者名】

karinko

【あらすじ】

彼女の命を助ければ今までの記憶がすべて消える。それでも…彼女の命が助かるなら…

「彼女の命を助ければ今までの記憶がすべて消えてしまいます。」

医者の口から出された残酷な事実。

「ウソ…だろ…??？」

思わず呆然としてしまう。

担架の上の血まみれの少女がわずかに目を見開いた。

少女は事故でひどい重傷を負っていた。

その少女の命を助ければ今までの記憶がすべて消えてしまう。

彼女のいままで過ごしてきた時間。

楽しかったこと。

うれしかったこと。

悲しかったこと。

悔しかったこと。

そして…

自分と過ごした時間。

笑いあったこと。

ケンカしたこと。

支えあったこと。

愛し合ったこと…

彼女の16年間でつくりあげてきた色がすべて落ちてしまう。

でも…

命は助かる…

それなら…

「それでもいい…それでもいいから！こいつを助けてくれ！」

「…最後に彼女と話しておくかい？」

手術室のまえで担架が止まった。

「と…も…き…私…忘れたくない…！」

とぎれとぎれの声で必至に訴える少女の手をぎゅっと握る。

「理恵…」

「忘れるくらいなら…死んだ方が…」

「そんなこと言うな！」

少女の涙をぬぐった。

「たとえおまえがオレのことを忘れても…オレはずっとおまえのことと覚えてる。おまえはずっとオレの中にいるんだ…！」

ふるえながら首をふる彼女の唇にそっと自分のそれをおとす。

少女をのせた担架は手術室の中に吸いこまれていった。

バタン…

扉が閉まり【手術中】とランプが灯る。

……これで、いいんだ。

彼女の命が助かるのならそれでいい。

たとえ彼女がオレのことを忘れたとしても…

オレはずっと彼女との思い出を忘れない。

さようなら。

理恵。

「あなたは…誰?？」

真っ白なベッド。

天上。

そこにすべてを失った真っ白な少女がいた。

ともきつ！

にっこり笑いながらオレの名前を呼ぶ少女の姿が頭によぎる。

あの明るいオレンジ色の少女はもういない。

だけど…

「はじめまして。上原智樹だ。」

にこりと少女に笑いかけた。

新しい理恵。

はじめまして。

オレが、

君に新しい色をつけていく。

君の思い出は消え去ってしまったけれど…

また一緒に新しい思い出をつくっていきよう。

前の思い出に負けないようになよ。

すばらしい時間を2人で過ごそう。

(後書き)

命と記憶。

あなたならどちらを選びますか？

好きな人が自分のことを忘れるって…

悲しいですよね…

でもやっぱり命を助けると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9900g/>

真っ白な君へ

2010年10月26日06時09分発行